

行政視察報告書

参加議員	木下靖、工藤健、奈良祥孝、竹山美虎
調査期間	令和5年11月8日（水）～令和5年11月10日（金）
調査先 及び 調査事項	①北海道室蘭市 「地方再生コンパクトシティについて」 ②北海道函館市 「はこだて未来館について」 「はこだてキッズプラザについて」

視察概要

- 調査先① 北海道室蘭市
- 調査事項 地方再生コンパクトシティについて
- 調査内容

【経緯】

令和5年10月2日に津軽海峡フェリーにより、青森～室蘭航路が復活したのを契機として、旧知の室蘭市長、青山剛氏から「青森～室蘭間のフェリーが復活したので是非視察に来てほしい」との依頼があり、会派に相談したところ、「本市では決して成功したとは言えないコンパクトシティの取り組みがある」ということで室蘭市を視察することとした。



1 室蘭市の概要

(1) 人口減少

昭和44年の18万人から令和5年では約7万6000人にまで人口が減少した。団塊ジュニアの世代も高齢者となる2040年には人口も約5万5000人、高齢化率も約40%と推計される。

(2) まちづくりの主な取組として

「室蘭市立地適正化計画」、「室蘭市都市計画マスタープラン」、「室蘭市地域公共交通網形成計画」に基づき、コンパクト・プラス・ネットワークによる持続可能なまちを目指す。具体的には、都市計画変更などによる拠点への機能誘導とコンパクト化を目指す。また、拠点間を結ぶ交通を維持するための、幹線・支線交通の再構築に向けたデマンド交通の実証実験を実施している。

2 室蘭駅周辺地区都市再生整備計画事業の概要

(1) 都市機能誘導区域の位置関係

公共施設が多く立地していたかつての中心地であるJR室蘭駅周辺と、大規模商業施設等が多く立地しているJR東室蘭駅周辺の2地区を指定している。

(2) 都市再生整備計画作成の契機

図書館、青少年科学館、総合体育館の老朽化、商店街の衰退、国の登録有形文化財である旧室蘭駅舎のさらなる有効活用等の現状と課題を整理した結果、社会資本整備総合交付金や都市再生整備計画事業で対応可能と判断した。

(3) 目指す姿

地区のポテンシャル(港、歴史、公共施設、公園、商店街等)を総動員し、

- ・ A 道外、市外、市内の三つの広域交流の促進
 - ・ B 商店街の魅力向上等による地域の活性化
 - ・ C 回遊性や総合プロデュース力向上の取り組みにより相乗効果の創出
- これらにより交流人口の拡大や地域の稼ぐ力の向上につなげ、にぎわいの再生を目指す。

(4) KPI(重要業績評価指標)

- ・ 歩行者通行量 7392人→8511人
- ・ 公共施設利用者数 7万5941人→10万人
- ・ 空き店舗活用件数 1件→8件

(5) 事業内容

- ・ 事業期間 平成30年から令和3年までの4か年
- ・ 交付率 50%
- ・ 交付対象事業費 53億5300万円
- ・ 交付限度額 26億7650万円

※交付対象外事業を含めると総額で85億円弱のプロジェクト

※えみらん(図書館・青少年科学館)建設費31億円、アリーナ建設費約43億円

※受領国費は26億7590万円で限度額の99.9%

3 地方再生コンパクトシティのモデル都市について

(1) モデル都市とは

都市のコンパクト化と地域の稼ぐ力の向上に、ソフト・ハード両面から取り組む都市を指す。

(2) 特徴的な取組

① 立地適正化計画により全市的に居住地のコンパクト化を推進

- ・ 市街化区域 3596haのうち居住誘導区域を1126haに設定した(国と

して一番の評価ポイントとなった)。若者を主とした結婚・出産新生活応援補助金を活用して、誘導区域への居住を推進している

②公共施設(文化施設)の集約

・図書館 1603 m²と青少年科学館 3246 m²を合築して、公共施設延べ床面積の総量を 4712 m²に抑制した(▲137 m²)

③公共施設(スポーツ施設)の集約

・市内のスポーツ施設を運動公園等に集約し、総量を抑制した
・テニスコート 3 か所 17 面を 1 か所 12 面に、サッカーグラウンド 2 面を 1 面に、総合体育館を運動公園に移設した

④エリア内の回遊性の向上に向けた取組(その1)

・道内最古の木造駅舎である旧室蘭駅舎と隣接する公園(S L 活用)を一体的に整備した

⑤エリア内の回遊性の向上に向けた取組(その2)

・散策路として歩いていただくために、エリア内 7 か所に案内板を設置した

⑥商店街の活性化に向けた取組

・まちづくりの「担い手」の発掘、遊休不動産の活用、創業支援「まちプロ室蘭(室蘭のまちなかを総合的にプロデュース)」
・仲間作りの場として、堅くならず自由に語り合える、トークイベントの開催
・まちなかのオープンスペースを活用した、にぎわいづくりの実証実験
・きっかけ トークイベントで出されたアイデア
・目的 ポテンシャルの確認と市民活動のきっかけづくり
・行政のしたこと 場所と設備の提供と人つなぎ(企画段階から市民有志を主体とした)
・キッチンカーによる飲食の販売、ラジオ体操、小物製作のワークショップ、書道教室、コスプレイベント等々、9 か月間で 80 を超えるイベントの開催(そのほか通常の公園のような憩いの場としての利用もある)

4 事業実施の効果と今後の課題等について

(1)公共施設の利用者数が増加(平成 28 年度→令和 4 年度)

・科学館 月平均入館者数 約 3200 人→約 3500 人
・図書館 月平均入館者数 約 2500 人→約 9500 人
・総合体育館 年間利用者数 約 12 万 1820 人→12 万 9561 人

(2)エリア内の空き店舗の活用件数が増加

平成 26~28 年度で 1 件→平成 30 年度~令和 2 年度で 8 件。

(3) エリア内に土地活用の動き

空き地に賃貸アパートが建設された。

(4) 自発的ににぎわいづくりに動き出せる人材を発見

オープンスペース活用の市民有志が継続的な活動を開始した。(『中央町たのしまさる会議』)

(5) 今後の課題

にぎわいを持続的なものとするために、図書館、科学館、総合体育館、公園等の公共施設の利用者を、まちなかへ回遊させる官民連携体制を確立する。

- ・ 民間主導のまちづくり、にぎわいづくりの動き “民間の行動変容”
- ・ 民間の発想の実現に向けて、できる限り行政がサポート “行政の行動変容”

5 結び

青森一室蘭航路の再開を契機とした視察であったが、視察終了後に市長室を表敬訪問して青森市長と懇談した。市長から青森一室蘭航路の就航率は以前から 99.6%であったこと、北海道から東京方面へのトラック便の関係(高速道路に午前4時までに乗らなければ 30%の割引が適用されない)からも、室蘭からの発時間は変わらないものと推察される、との発言からも青森からの便はトラック便よりも一般の便(帰路の便は分散)、室蘭からの便はトラック便が主流となるものと考えられる。また、コンパクトシティを標榜するのであれば、人口減少に対応した居住区域の設定などは、除雪経費・道路橋梁等社会インフラ整備経費を考えると必要不可欠な課題と考える。民間力をフルに活用するためにも、行政は陰からのサポートに徹し、民間活力を主に口出ししない方向性も必要と考える。



■ 調査先② 北海道函館市

- 調査事項 はこだて未来館について
はこだてキッズプラザについて

■ 調査内容

調査日：令和5年11月10日（金）

- 調査先：①はこだてみらい館
②はこだてキッズプラザ

1 函館市中心市街地活性化基本計画策定について

函館市は、中心市街地活性化法に基づき、平成11年5月から函館駅前・大門地区の約48haを対象に各種施策を展開したが、その後の長引く景気低迷や都市機能の拡散・大規模集客施設の郊外立地、少子高齢化・人口減少等により、函館市全体が衰退の状況にあったことから、人口減少時代に向けた新たなまちづくりの方向性として、コンパクトなまちづくりや北海道新幹線新函館開業を見据え、全ての人に魅力のあるまちづくりを早急に進める必要が生じた。このようなことから、改正中心市街地活性化法に基づく新たな中心市街地活性化基本計画を策定し、平成25年3月29日付で内閣総理大臣の認定を受けたものである。

(1) 計画期間

- ・平成25年4月から平成30年3月まで（5か年）

(2) 計画対象区域

- ・約200ha

(3) 基本コンセプト

- ・市民生活と歴史・文化、観光が融合した回遊性の高いまちづくり

(4) 基本方針

- ・にぎわいある集客拠点の創出（商業と公共公益との連携）
- ・新たな交流を生む都市空間の創出（来やすい回遊しやすい環境）
- ・魅力ある生活空間の創出（街なか居住推進のための仕掛け）

(5) 具体的事業

- ・区分1 市街地の整備改善事業（函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業など12事業）
- ・区分2 都市福利施設を整備する事業（はこだておもしろ館整備事業など9事業）
- ・区分3 住宅供給および居住環境向上事業（街なか居住支援事業など3事業）
- ・区分4 商業の活性化事業および措置（中心市街地出店促進支援事業など28事業）

・区分5 公共交通機関の利便性増進事業(電車停留場整備事業など6事業)

2 評価

基本計画に搭載した58事業のうち52事業が実施済または実施中であり、6事業が未実施である。事業進捗率は89.7%とおおむね順調に進捗し、数値目標とした、中心市街地の年間観光入込客数100.3%、中心市街地の歩行者通行量111.1%、路面電車の乗降人員数104.3%と若干の活性化が図られたと評価した。そして、引き続き、それぞれの事業主体に加え、地域や商店街との連携を深め、整備した施設が集客拠点として、また、交流の拠点として、その役割を果たせるよう、利用者のニーズ把握や認知度を高め、魅力ある中心市街地となる取り組みを継続することとした。

3 計画期間終了後の市街地の状況とその後

函館市は、史跡や文化的景観を活用し、都市型観光サービスの充実を図るとともに、集客拠点の整備や各種ソフト事業の展開により、中心市街地のにぎわいの創出、観光客等の交流人口の拡大と回遊性の向上に努めた。

函館駅前・大門地区では、「函館駅前若松地区第一種市街化再開発事業」が完了し、これらの複合施設に入居した「はこだてみらい館」、「はこだてキッズプラザ」や商業施設に福祉・高齢者対策として入居した「ふらっとDaimon」のオープンにより、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の市民や観光客が訪れ、交流とにぎわいの創出に寄与している。

本町・五稜郭・梁川地区では、「函館本町地区優良建築物等整備事業」、「函館南茅部線五稜郭交差点地下歩道修繕事業」が完了し、居住人口減少の軽減や歩行空間の快適性が向上し、多くの市民や観光客の往来が促進され、にぎわいの創出が図られている。

さらに、「駅前環境美化推進事業」、「アーケード撤去事業」などの景観整備事業や、各種イベント等が開催され、北海道新幹線開業や海外航空路線を利用した観光客を迎え入れる函館の玄関口としても、にぎわい創出に向け中心市街地が一体となって多くの事業を実施してきた。

計画終了後も、若松埠頭のクルーズ船岸壁やクルーズ船用旅客ターミナルが整備されるなど(令和5年度は42回寄港)、これまでの取組を踏まえ、引き続き中心市街地の活性化を強力に推進している。

4 視察先について

函館市中心市街地活性化基本計画における各種事業等の実施経緯と現状については上記のとおりであるが、対象区域が広く各事業も多岐にわたること、時間的制約もあることから、今回、市民クラブ会派では、函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業に着目し、「はこだてみらい館」と「はこだてキッズプラザ」を視察した。

(1) 視察先

① 函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業

- ・実施主体 (株) NAアーバンデベロップメント
- ・概要 旧WAKO跡に建設された地下1階、地上16階建てのビルで、ビル名称は「キラリス函館」。地下～2階が商業施設、3階が「はこだてみらい館」、4階が「はこだてキッズプラザ」、5～16階がマンション。
- ・平成29年2月全館竣工

② はこだておもしろ館整備事業(整備費は③と合わせ20億1458万4200円)

- ・実施主体 函館市
- ・運営主体 指定管理者はこだてみらいプロジェクト運営グループ
- ・概要 平成28年10月15日オープン。施設名称は「はこだてみらい館」。縦2.4m横14.4mの巨大な高精細LEDディスプレイやモノづくりができるラボなどを備え、「オドロクチカラ」をテーマに様々な体験ができるほか、数多くのワークショップを展開している。

③ 子育て世代活動支援プラザ整備事業

- ・実施主体 函館市
- ・運営主体 指定管理者はこだてみらいプロジェクト運営グループ
- ・概要 平成28年10月15日オープン。施設名称は「はこだてキッズプラザ」。小学生までが楽しめる大型のネット遊具などがあるプレイグラウンドや2歳未満児用のベビーパーク、授乳室・おむつ替え室、子育て相談室、託児室などを備えている。

(2) 調査内容報告

はこだてみらい館の開館時間は10:00～20:00、はこだてキッズプラザの開館時間は10:00～18:00、休館日は年末年始と毎月第2水曜日で、使用料は以下のとおり(2館共通券もあり)。

【はこだてみらい館】

区分	入館料			
	個人	20人以上の団体	3か月券	6か月券
大人・中高生・小学生	300円	240円	900円	1,500円
(共通券)	(250円)	—	(800円)	(1,400円)
摘要	次に掲げるものは無料。 (1) 小学校就学前の者 (2) その他市長が特に認めるもの			

【はこだてキッズプラザ】

区分	入館料			託児施設
	個人	3か月券	6か月券	
子ども (共通券)	300円 (250円)	900円 (800円)	1,500円 (1,400円)	子ども1人 につき1時 間までごと に600円 (超過時間30 分までごと に600円)
保護者付添人 (共通券)	100円 (50円)	300円 (200円)	500円 (400円)	
摘要	次に掲げるものは無料。 (1) 生後6か月に達しない者 (2) その他市長が特に認めるもの			

「はこだてみらい館」は、科学を身近に感じるコンテンツで遊びながら「オドロクチカラ」を育む施設で、入館するとすぐに縦2.4m横14.4mの巨大な高精細LEDディスプレイのメディアウォールが眼前に現れ、様々なコンテンツが次々に上映され、映し出された動物や魚と走ったり、体を動かすことで新たな発見や驚き・感動を呼び起こす仕組みになっている。この他、自分で色を塗った海の生物が泳ぐことで生態系を楽しく学べるデジタル水槽、3Dプリンターやレーザーカッターを利用した工作イベントの開催をしているラボラトリー、球体ディスプレイで地球の過去・現在・未来の変化やリアルタイムの観測データを見られるSPHERE(スフィア)、360度映像とマルチチャンネルサラウンドで今までにない函館体験ができる360Studioなどワクワクする体験設備が盛りだくさん。また、科学・工作・プログラミング等の多彩なワークショップの開催もしている。

「はこだてキッズプラザ」は、全身を使った遊びをとおして、子どもの運動機能の発達を育み、子育てを応援する全天候型プレイグラウンドとなっている。中央には、「雲」と呼ばれる大型ネットの中を全身を使って自由に遊べる遊具(天井の鏡によって、まるで雲の中で遊んでいるような不思議な感覚)を設置し、その周りを囲むように、山・丘・池の配置や、ピョンピョン飛んで全身運動の「エアートラック」、高さが2m70cmのボルダリング壁「クライミングウォール」、森に見立てた迷路型エア遊具「キッズの森」などがある。また、併設して、2歳未満の子どもが安心して遊べる「ベビーパーク」、2歳から小学3年生までの子を一時的に預けることができる「託児室」、子育て支援コンシェルジュに子育ての様々な相談ができる「子育て相談室」が設けられている。

入館した途端に、子どもたちの歓声が聞こえ、笑顔があふれている情景に触れ、一瞬にしてこの施設が、いかに市民に愛されているかを感じることができた。実際に、たくさんのイカが泳いでいるメディアウォールの映像の一点に光を当てると集まってくるイカの大群、スクリーンの前に立つと身長が即座に測れるすすくスケールなどを体験し、楽しみながら学んだりすることができた。この他にも11月はドローン操縦やプログラミングの体験イベントの開催も

未来ラボで予定されていた。

その他、スタッフの市民に
寄り添った対応は好感が持てた。

本市も青森駅周辺の再開発が
進んでいるが、今回の視察の成果
を今後のまちづくりに活かせるよ
う取り組んでいく。

